

京都大学	博士（医学）	氏名	青木拓也
論文題目	Social Isolation and Patient Experience in Older Adults (高齢者における社会的孤立とペイシェント・エクスペリエンス)		
(論文内容の要旨)			
<p>ソーシャル・ネットワークの欠如による社会的孤立は、特に高齢者において、再入院や死亡など様々な健康アウトカムに負の影響を及ぼすことが知られている。このような影響のメカニズムの一つとして、提供される医療の質に社会的格差が存在する可能性が、先行研究で示唆されている。</p> <p>医療の質の構成要素のうち、患者中心性は、患者の意向・ニーズ・価値に応じたケアの提供と定義され、現在では国際的に重要視されている。ペイシェント・エクスペリエンスは、患者中心性の代表的な質指標（プロセス指標）であり、受療行動やアドヒアランスなどの患者行動を方向付けることが知られている。社会的孤立とペイシェント・エクスペリエンスとの関係に関する知見は、患者中心性の質向上に資すると考えられるが、これまで両者の関連を検証した研究は存在しない。本研究は、プライマリ・ケア・セッティングの高齢患者において、社会的孤立とペイシェント・エクスペリエンスとの関連を検証することを目的とした。</p> <p>研究デザインは、多施設横断研究である。2015年10月から2016年2月の期間に全国28施設のプライマリ・ケア診療所で実施した Primary care Organizations Reciprocal Evaluation Survey Study (PROGRESS) のデータを使用した。PROGRESS は、連続サンプリングを用いて抽出したプライマリ・ケアの成人外来患者を対象に、ペイシェント・エクスペリエンス、健康関連 QOL、併存疾患、受療行動、社会経済的指標などのデータを収集した自記式質問紙調査である。本研究の対象は、65歳以上かつ研究参加施設に主治医を有する患者とした。社会的孤立は、Lubben Social Network Scale を用いて測定を行い、先行研究でのカットオフ値の規定に準じ、12点未満を社会的孤立ありと評価した。プライマリ・ケアにおけるペイシェント・エクスペリエンスは、Japanese version of Primary Care Assessment Tool (JPCAT) を用いて評価し、総合得点および下位尺度得点 [近接性、継続性、協調性、包括性（必要な時に利用できるサービス）、包括性（実際に受けたことがあるサービス）、地域志向性] を算出した。JPCAT の minimally important difference は、先行研究に基づき3点と規定した。線形混合モデルにより、対象者の性別、年齢、教育歴、世帯年収、全体的健康感、精神的健康状態 (SF-36 5-item Mental Health Index で評価)、および診療所クラスタリングを調整した。本研究は、京都大学医の倫理委員会の承認を得た上で実施され、研究への参加にあたり、全ての対象者から文書で同意を取得した。</p> <p>465人の高齢患者を解析対象とした。対象患者の74.8%が2つ以上の慢性疾患を有する多疾患併存状態であり、社会的孤立患者の割合は27.3%だった。0-100点で評価される JPCAT 総合得点の平均値は65.7点だった。線形混合モデルを用いた多変量解析の結果、社会的孤立は、JPCAT 総合得点と臨床的に有意な負の関連性を示した (mean difference = -3.67, 95% confidence interval: -7.00 to -0.38)。JPCAT 下位尺度得点の中で、社会的孤立と臨床的に有意な関連性を認めたのは、継続性、包括性（実際に受けたことがあるサービス）、地域志向性であり、中でも最も関連性が強かったのは、包括性（実際に受けたことがあるサービス）であった (mean difference = -7.58, 95% confidence interval: -14.28 to -0.88)。</p>			

プライマリ・ケア・セッティングの高齢患者において、社会的孤立とペイシェント・エクスペリエンスとの負の関連性を認めた。プライマリ・ケア提供者は、患者のソーシャル・ネットワークに注意を払うべきであり、孤立患者をターゲットとしたペイシェント・エクスペリエンスの向上（特に継続性、包括性、地域志向性）が求められる。

(論文審査の結果の要旨)

本研究は、社会的孤立に関連する健康リスクのメカニズムとして、医療の質の主要構成要素の一つである患者中心性とその評価指標であるペイシェント・エクスペリエンス（患者経験価値）に着目し、社会的孤立とペイシェント・エクスペリエンスとの関連についての検討を、プライマリ・ケアにおける高齢患者を対象に行った。

マルチレベル分析を用いて、交絡因子と施設クラスタリングを調整し解析した結果、Lubben Social Network Scale を用いて評価した社会的孤立と、プライマリ・ケアにおけるペイシェント・エクスペリエンス尺度である Japanese version of Primary Care Assessment Tool (JPCAT) 総合得点との負の関連が示された (mean difference = -3.67, 95% confidence interval: -7.00 to -0.38)。また、JPCAT 下位尺度得点の中では、継続性、包括性、地域志向性と社会的孤立との関連が示された。

本研究には、セッティングとなった医療機関の属性が限定されている点、質問紙調査の回収割合が低い点などの限界が存在するが、社会的孤立が、患者中心性の質指標であるペイシェント・エクスペリエンスと負の関連を示すことを報告した。

以上の研究は、社会的孤立に関連する健康リスクのメカニズムの解明に貢献し、社会的孤立患者の医療・健康支援の向上に寄与するところが多い。

したがって、本論文は博士（医学）の学位論文として価値あるものと認める。

なお、本学位授与申請者は、平成31年1月7日実施の論文内容とそれに関連した試問を受け、合格と認められたものである。

要旨公開可能日： 年 月 日以降